

講義ユニット名	感染症		所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	たづま すすむ 田妻 進	所属	総合診療科 (内線 5461)	
		メール	stazuma@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	みぞおか まさふみ 溝岡 雅文	所属	総合診療科 (内線 2880)	
		メール	mizooka@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<p>感染症はウイルス、細菌、寄生虫、原虫、リケッチアなどの起炎菌が体内の各臓器に感染して発症する。日常臨床においては、臨床医が必ず遭遇する疾患であり、正しい感染症の診断、治療についての知識を修得する必要がある。</p> <p>本ユニットの講義では、診療科や臓器に関係なく、感染症への理解を深めて、臨床医として必要な基本的知識を確立することを目指す。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>病原体に対する生体の反応を説明できる。</p> <p>敗血症の症候、診断と治療の基本を説明できる。</p> <p>菌交代現象・菌交代症を概説できる。</p> <p>日和見感染症&lt;opportunistic infection&gt;を説明できる。</p> <p>下痢症、食中毒を起こす病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できる。</p> <p>輸入感染症、人獣共通感染症について説明できる。</p> <p>新興感染症・再興感染症を列挙できる。</p> <p>整形外科系、婦人科系、耳鼻科系感染症について説明できる。</p> <p>全身性炎症（性）反応症候群（SIRS）を概説できる。</p> <p>主な感染症の原因となる病原体を分類できる。</p> <p>感染症の化学療法を概説できる。</p> <p>予防接種の適応と意義を説明できる。</p> <p>インフルエンザの症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>ウイルス性皮膚疾患（単純ヘルペスウイルス感染症、伝染性紅斑、手足口病、ウイルス性ゆうぜい）を概説できる。</p> <p>ヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染症の感染経路、自然経過、症候、診断、治療と感染対策を説明できる。</p> <p>サイトメガロウイルス（CMV）感染症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>伝染性単核（球）症の症候と診断を説明できる。</p> <p>ヒトT細胞白血病ウイルス（HTLV-I）感染症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>ブドウ球菌感染症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>A群レンサ球菌感染症の症候、診断、治療とリウマチ熱との関連を説明できる。</p> <p>結核の病因、症候、診断、治療と予防を説明できる。</p> <p>病原性大腸菌感染症を概説できる。</p> <p>ジフテリア、破傷風と百日咳の症候、診断と予防を説明できる。</p> <p>劇症型A群β溶連菌感染症を概説できる。</p> <p>インフルエンザ（桿）菌と肺炎レンサ球菌感染症を概説できる。</p> <p>クラミジア感染症を概説できる。</p> <p>リケッチア感染症を概説できる。</p> <p>カンジダ症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>ニューモシスチス肺炎の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>主な原虫疾患（マラリア、トキソプラズマ症、アメーバ赤痢）を説明できる。</p> <p>クリプトコックス症とアスペルギルス症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>性行為感染症を概説できる。</p> <p>院内感染の病因となる病原体を列挙し、対策を説明できる。</p> <p>メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の特徴、病院内での対応の方法を説明できる。</p>			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。 3分の2以上の出席がない場合は本試験の受験資格を与えない。			

評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は基本的には絶対基準とするが、一定の条件を満たした時 (得点率60%未満の受験者が総受験者の10%を超える場合)には相対基準を適用する。 相対基準は、平均得点—(1~2)×標準偏差とする。
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 標準感染症学 (医学書院) Harrison's principles of Internal Medicine ハリソン内科学 (MEDSI) 感染症